

1：平成20年度事業報告

①事業

- (1) 国民に対する糖尿病知識の普及・啓発
- (2) 糖尿病対策国際協力事業の推進
- (3) 国連「糖尿病決議」推進のための普及事業
- (4) 4団体（医師会・歯科医師会・学会・協会）の連携強化による糖尿病対策の推進
- (5) 都道府県糖尿病対策推進の強化
- (6) 公益法人制度改革に伴う準備
- (7) 刊行物及び糖尿病治療のための啓発事業の推進
- (8) 登録医・療養指導医制度の普及
- (9) 歯科医師登録医制度の確立
- (10) 会員増強対策の推進（イ.本部会員の増強 ロ.支部「友の会」の推進）
- (11) 民間との連携の強化

②会議の開催

総会、各会議を次のとおり開催した。

- (1) 総 会 平成20年5月23日(金) 東京フォーラムで開催
 - (2) 理 事 会 平成20年5月23日(金)、平成20年6月22日(日)、平成21年3月1日(日)
役職理事会 平成20年12月13日(土)、平成21年3月1日(日)
 - (3) 支部長会議 平成20年5月23日(金)
 - (4) <各種委員会>
 - 企画委員会 平成20年7月28日(月)、平成21年1月31日(土)
 - 企業委員会 平成20年6月23日(月)、平成21年3月27日(金)
 - 『さかえ』編集委員会 平成20年6月22日(日)、平成20年10月26日(日)、平成21年2月15日(日)
 - 『プラクティス』編集委員会 平成20年8月9日(土)
 - インターネット委員会 平成20年6月29日(日)
 - 療養指導委員会 平成20年7月13日(日)、平成21年1月24日(土)
 - 小児糖尿病対策委員会 平成20年7月19日(土)、平成20年11月30日(日)
 - 総務委員会 平成20年7月25日(金)
 - 倫理委員会 平成20年6月29日(日)
 - 将来計画委員会 平成20年11月8日(土)
 - 学術委員会
- (その他小委員会及びワーキンググループ(WG))

学術小委員会	平成 20 年 11 月 8 日(土)
TEAM DIABETES JAPAN WG	平成 20 年 4 月 13 日(日)、平成 20 年 8 月 31 日(日) 平成 21 年 2 月 8 日(日)
CDE 組織化と活用に関する WG	平成 20 年 8 月 31 日(日)
日糖協登録医制度に関する WG	平成 20 年 6 月 1 日(日)
日本糖尿病対策推進会議幹事会	平成 20 年 9 月 29 日(月)
日本糖尿病対策推進会議 WG	平成 20 年 6 月 5 日(木)
50 周年記念事業委員会	平成 20 年 7 月 25 日(日)、平成 20 年 12 月 13 日(土)
「世界糖尿病デー実行委員会」・ 「ブルーサークル企画委員会」合同委員会	平成 20 年 7 月 13 日(日)、平成 20 年 10 月 29 日(水)
「インスリン注入器の操作説明」に関する WG	平成 20 年 6 月 29 日(日)
DAWN Youth 「ブタペスト」WG	平成 20 年 7 月 27 日(日)、平成 20 年 8 月 3 日(日)、 平成 20 年 8 月 10 日(日)、平成 20 年 8 月 24 日(日)

③糖尿病の予防及び治療に関する知識の普及・啓発活動

(1) 『糖尿病ライフさかえ』の発行等

協会誌として様々な企画を盛り込みながら、親しみやすい内容で糖尿病の療養に関する正しい知識の啓発を行った。

(2) 『プラクティス』の発行等

編集内容を一層充実させコメディカルスタッフの知識向上に役立てた。

(3) 全国糖尿病週間の実施

平成 20 年 11 月 10 日(月)から 16 日(日)までを全国糖尿病週間とし、「広げよう！ブルーサークル」をテーマのもと、社団法人日本糖尿病学会との共催で、厚生労働省、日本医師会、日本放送協会、日本糖尿病財団、日本歯科医師会の後援を得て、全国各都道府県支部を中心に糖尿病に関する講演会、血糖測定、医療相談、栄養相談の事業を実施した。

「世界糖尿病デー」のイベントとして、10 月 29 日に記者会見、11 月 14 日には東京タワーはじめ、都道府県支部を中心に国内 50 ヶ所以上、また海外 70 ヶ国以上のモニュメントがブルーにライトアップされ、新聞、マスコミ等で大いに注目を浴びた。

(4) 啓発活動の展開

秋田(11 月 16 日)、兵庫(11 月 22 日)、高知(11 月 24 日)、三重(平成 21 年 3 月 8

日)において、糖尿病シンポジウムを開催し、延べ5,000名以上の来場者を迎えた。マスコミ(秋田魁新聞、神戸新聞、高知新聞、中日新聞各社)の協力を得て、当協会の事業内容の周知を図るとともに、糖尿病に関する正しい知識の啓発を行った。

毎日新聞社紙面にて毎週金曜日、特集記事「なくそう 減らそう 糖尿病」を連載した。また、糖尿病予防キャンペーンを東京会場(ベルサール神田・10月12日)で開催し、400名の来場者があるなど、メディアとの連携強化を図った。

医薬品メーカーとの共催により「グリコヘモグロビン(HbA1c)認知向上運動」を宮崎で開催した。延べ500名の参加があり、講演会・イベント(ウォーキング、クイズ等)を通じて啓発運動を行った。

TEAM DIABETES JAPANのスポーツイベントを支援(第36回ホノルルマラソン(12月13日)、参加者事前セミナー開催(10月5日)、エアロビ大会(大阪9月13日)、その他各地のマラソン大会に参加(13回以上)した。

(5) 療養指導の推進

日本糖尿病協会登録医制度が軌道にのり、医師の登録数が1,000名となり、1回目の更新が行われた。各地で登録医の為の講習会が開催された。

また、歯科医師の「日本糖尿病協会歯科医師登録医」の登録数が約4,727名となった。

糖尿病重症化予防の為のフットケアについて診療報酬が認められるようになり、日本糖尿病教育看護学会の協力のもと、研修会(6ヶ所(福島・大阪他))がスタートし、合併症予防に強い看護師を育成した。

(6) 糖尿病予防キャンペーンの実施

日本糖尿病財団との共催により、青森(11月30日)、島根(12月7日)にて糖尿病予防キャンペーンを開催、延べ1,000名の来場があった。

(7) 小児糖尿病対策

小児1型糖尿病患者に正しい治療を習得・実践させるために、小児糖尿病生活指導講習会(サマーキャンプなど47ヶ所)を財団法人日本船舶振興会(日本財団)の補助金を受けて開催した。

15歳以上の1型糖尿病患者を対象にした「第7回全国ヤングDMカンファレンス」を名古屋市で開催し(11月1日-2日、延べ400名参加)、指導者の育成や1型糖尿病の若者の抱える種々の問題点等の解決を目指して討議した。また、ヤング糖尿病キャンプ(2ヶ所)に対しても補助を行った。

小児糖尿病の社会心理面やサマーキャンプの効果について、調査を実施した。

(8) 糖尿病に関する調査研究の推進

市販後の糖尿病治療薬の初期治療における有効性について、調査研究を実施した。協会HP Webサイトで、医療従事者を対象に「小児や青少年の糖尿病患者のケアに

ついて」オンライン・アンケート調査を実施した。

本部会員を対象とし、治療実態及び協会入会後の治療への取り組みに関する変化についてアンケート調査を実施。また企業との共同で「糖尿病と合併症リスクに関する認知度」実態調査を行い日本病態栄養学会で発表を行った。

(9) 学術に関して

インスリン用ペン型注入器およびキット製剤とその注射器の使用について、嵌合性について、医薬品企業の意思統一を行い添付文書の改訂に貢献し医療機関、医療従事者および患者への指導を行った。

(10) 国際交流

第8回日中友好糖尿病シンポジウム(4月25日～26日・和歌山)を共催で行った。国際糖尿病連合(IDF)のExecutive meetingが台湾(平成21年3月5日～7日)で開催され、国際交流を図った。

DAWN(Diabetes Attitudes Wishes and Needs)の国際会議(11月6日ハンガリー)で、「ブタペスト サブミッション」の企画を提出した。

国際糖尿病連合西太平洋地区アジア太平洋糖尿病疫学・教育コース2008(8月23日～30日:東京開催)を支援した。

(11) 日本糖尿病対策推進会議について

各都道府県に糖尿病対策推進会議を設置し、地域の実情に即した糖尿病対策を実施した。

神経障害啓発のためにポスター等を制作した。

(12) ホームページの活用

協会ホームページへの活用を促す為に各行事等をUPし、アクセスを促進した。

(13) グッズ

企業の協力を得て、糖尿病健康手帳、自己管理ノート、IDカード、英文カード、新たに食事記録表を加え、療養に役立つグッズの製作・頒布を行った。

その他 2008年12月6日IDF理事会において、日本糖尿病協会が暫定会員として加盟が認められた。